

「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットしょうなん

BOSAI Never Ending Tension~終わりなき緊張感

考えよう柏の防災

Ka・Ka・Bou

ヒマワリはまちのシンボルです

2026(令和8)年3月11日/大震災に備える臨時号
自然災害に強いまちづくりをめざしましょう!



南海トラフ地震は30年以内に約80%の
確率で起きるそうです

15年前の震災の事を思い出し行動しましょう

震災後の「暖の取り方」を考えましょう これから夏の季節に向けても欠かせませんよ!

今年で15年が経過する東日本大震災。被災地は粉雪の舞う天候だったことをご記憶の方もおられることと思います。避難先はライフラインの供給が停止し、凍える毎日を強いられた住民が決して少なくありません。2年前の能登半島大地震直後も、交通網遮断で支援の手が及ばない地域では同様でした。

当会役員等有志が昨年5月に実施した防災キャンプは、雨の降るあいにくの気候であったため、気温低下の野営場所では「石油ストーブ」が大活躍でした。

災害時にいかに暖を確保するかは、被災地の生命線でもありますので、是非住民の皆さんも、この暖を取ることに視点を移した事前の取り組みをお願いします。

直火の「暖」

工事現場や被災地で見かけるドラム缶焚火(たきび)は、屋内設置が難しく、灰や煙による周辺への悪影響がつかまといいます。是非、**電力不要(乾電池使用型)の石油ストーブ**を灯油とともに用意しましょう。各家庭で小型のストーブ(右下参照)を用意、あるいは各住民団体組織での備蓄品としての配備、配備済み団体は毎年の定期点検を確実に行いましょう。

どちらにしても、火の取り扱いと火災事故発生防止に努めてください。岩谷産業製カセットガス式ストーブ(防災専門家推奨品)→



衣類や寝具で「暖」

着るモノや毛布等の寝具をつねに用意しておきましょう。夏の期間も油断せず、しまい込んだ**冬物衣類が発災後でもすぐに取り出せるよう**、家族で衣服収納場所の共有をお願いします。

あったかいねえ



食事で「暖」（家庭用ガスコンロのご用意を）

暖かいものを食事として取り入れ、暖を取ることも大切です。公的支援からの備蓄食糧はそのほとんどが、調理しなくても食べられる食材です。暖かい食べものはほぼ無いと考えてください。外部からの共有物も同じです。大規模災害では、自衛隊などの公的支援による食事提供は、柏市には「そうした支援は決して来ないもの」と覚悟しましょう。



隣保協働で「暖」（支え合い・心と力あわせ）

隣人の皆さんと協力しあうことで、心がきつと温かくなります。地域団体の力はこうした災害時に差が出ます。団体からの脱会をお考えの皆さんは一度冷静に考えましょう。災害時の命にもつながることを。

去る2月19日、当風早北部地域内の一部でも停電が長時間発生しました。意外なときにもライフライン遮断は起きます。いざという時の備えを確実にしておきましょう。

私たちはこう考え・主張しています

柏市には現在、屋内施設を有する指定避難場所につき、大規模災害発生時に避難する市民や帰宅できない就労者等を100%受け入れ可能な屋内施設の絶対数が足りていません。そうした状態がここ10年以上そのまま未解決となっています。

わたしたちも風早北部地域住民は、在宅避難が難しい場合は、屋外避難方法として**マイカー避難**

と家庭用ミニテントを組み合わせた避難方法が有効であると考え、その場所の確保を市行政に求めています（市は車両急増で公道の渋滞が緊急車両通行を妨げるとし、この考えに否定的見解を示しています）。

市の抜本的な屋内避難所確保策がいつまでも前進が期待できない中で、いずれ市は上記の考えに追随せざるを得ないものとわたしたちもは推察しています。是非、この考えにご賛同いただける住民の皆さん、マイカー&マイテント避難策のご準備をお願いします。

